

分娩歴別、年齢別の出産体験満足度と母性意識について

—Web調査における3歳未満の児を持つ母親を対象に—

イシバシ チカ ホリグチ イツコ スミクラ ヒロユキ イナダ エイチ
石橋 千佳*1 堀口 逸子*3*4 角倉 弘行*2 稲田 英一*2

目的 出産体験自己評価尺度、母性意識尺度を用いて、分娩歴別、出産年齢別の特徴を明らかにすることを目的とした。

方法 対象は、100万都市のある11都道府県の3歳未満の児を持つ20～40歳代の女性1,017人とした。方法はWebサイトを利用した質問紙調査である。質問内容は、対象者の属性、児の情報、出産状況の他、出産体験の満足度と母性意識として、出産体験の自己評価尺度（5件法）および母性意識尺度（4件法）を用いて実施した。

結果 初産婦585人、経産婦432人の計1,017人、平均出産年齢は、 31.2 ± 5.8 歳であった。出産体験の自己評価の総得点の平均値は、初産婦 3.56 ± 0.68 、経産婦 3.81 ± 0.58 と経産婦の方が、有意に満足度が高かった（ $P < 0.01$ ）。出産年齢別（ $P < 0.01$ ）および初産婦の出産年齢別（ $P < 0.01$ ）、経産婦の年齢別（ $P < 0.05$ ）では、20～24歳で高く有意な差を認めた。母性意識の総得点の平均値は、肯定感が初産婦 3.15 ± 0.56 、経産婦 3.05 ± 0.59 で初産婦が有意に高かった（ $P < 0.01$ ）。否定感は初産婦 2.22 ± 0.52 、経産婦 2.31 ± 0.52 で経産婦が有意に高かった（ $P < 0.01$ ）。出産年齢別および初産婦の出産年齢別では、肯定感について20～24歳で有意に高く（ $P < 0.05$ ）、経産婦の出産年齢別では、否定感について40歳以上で有意に低かった（ $P < 0.05$ ）。

結論 本研究において、分娩歴別、年齢別で、出産体験の満足度と母性意識が異なることが明らかになった。出産や子育てに関する母親へのサポートは、分娩歴や年齢を考慮し、出産体験の満足度や母性意識に配慮することが効果的であると示唆された。

キーワード 出産体験、自己評価、母性意識、分娩歴、年齢、Web調査

I はじめに

近年、女性の社会進出、非婚・晩婚の増加、少子化が進み、健やか親子21では「妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保」「育児不安の軽減」を目標としている¹⁾。女性にとって妊娠・出産は、身体的・生理的変化の体験と同時に母親となるための心理的準備期間である。出生動向基本調査²⁾では、出産や子育ての状況や意識が年齢で異なっており、先行研究³⁾⁴⁾では、

母体リスクや分娩経過は、分娩歴や年齢で異なっていた。

出産体験の満足度や母性意識については、出産体験の自己評価尺度、母性意識尺度といった評価尺度が開発されており、それをを用いた研究では、出産体験の満足度は、分娩歴や分娩経過⁵⁾⁻⁷⁾、医療介入や出産場所⁸⁾によって異なり、また母性意識は、母親の年齢や世代⁹⁾で異なっていた。そして、出産体験の満足度は、母親意識の形成、次の妊娠に対する意欲などに影響を

* 1 順天堂大学医学部付属順天堂医院麻酔科学ペインクリニック講座助手 * 2 同教授

* 3 順天堂大学医学部公衆衛生学教室客員准教授 * 4 国立大学法人長崎大学広報戦略本部（東京事務所）准教授

与えている¹⁰⁾¹¹⁾。しかし、これらは小規模集団で、分娩施設利用者に限定されており、分娩歴、年齢が考慮された全国的な調査はほとんど報告されていない。

本研究では、分娩歴、年齢による出産体験満足度と母性意識の特徴を明らかにすることを目的として、これらの評価尺度を用いた全国的な調査を行った。

Ⅱ 方 法

(1) 対象者および手続き

インターネット調査会社1社の登録モニターを対象として、100万都市のある11都道府県で日本国内在住の3歳未満の児を持つ20～40歳代の女性1,000人を、国籍は問わず選出依頼し、回収された1,030人(回収率66.9%)を対象とした。調査期間は、2013年7月30～31日である。

(2) 調査内容

対象者の属性として本人の年齢、一番最近の出産年齢の2項目、児の情報として一番最近出産した児の年齢、性別、第何子、出生時体重の4項目、出産時の状況として、分娩施設、分娩施設を選んだ理由、出生児週数、遷延の有無、医療介入(帝王切開、無痛分娩、誘発・陣痛促進剤、吸引・鉗子分娩)の有無、母体リスク、情報収集の有無、出産費用の意識、出産した都道府県の12項目、計18項目を設定した。

出産体験の満足度は、「出産体験の自己評価尺度(常盤)短縮版」¹²⁾を用いた(表1)。この尺度は、経膈分娩をした人を対象としているため、本研究でも帝王切開を受けた人は除外した。産痛コーピングスキル7項目、医療スタッフへの信頼6項目、生理的分娩経過5項目の計18項目で構成され、各々の項目は「非常にそう思う:5点」から「全くそう思わない:1点」の5件法で、合計得点が高いほど出産満足度が高いことを意味している。

母性意識は、「母性意識尺度(大日向)」⁹⁾を用いた(表1)。この尺度は、母親役割受容の肯定感と否定感各6項目の2因子構造から構成

表1 尺度の質問項目一覧

出産体験の自己評価尺度(短縮版18項目) [産痛コーピングスキル](7項目) 1. 陣痛の強さに合わせて呼吸法ができた 2. お産の痛みをひろい心で受け止めた 3. 精神的に落ち着いてお産ができた 4. 「痛い」「助けて」など、弱音をいわなかった 5. リラックスできた 6. いきみ方がうまくできた 7. 苦しくても赤ちゃんのために頑張った [医療スタッフへの信頼](6項目) 8. すべて助産師にまかせることができた 9. 処置や検査についてわかりやすい説明があった 10. 信頼できる助産師がそばにいた 11. 信頼できる医師がそばにいた 12. 出産時に助産師と医師の連携がよかった 13. 自分のお産の経過を教えてもらった [生理的分娩経過](5項目) 14. お産が順調に経過した 15. 自分の力で産むことができた 16. 自然な経過で産まれた 17. 自分の思い通りのお産ができた 18. 自分の期待通りのお産ができた
母性意識尺度 [肯定感]MP得点 1. 母親であることが好きである 2. 母親になったことで人間的に成長できた 3. 母親としてふるまっているときが一番自分らしいと思う 4. 母親であることに生きがいを感じている 5. 母親になったことで気持ちが安定して落ち着いた 6. 母親であることに充実感を感じる [否定感]MN得点 7. 子どもを育てることが負担に感じられる 8. 育児にたずさわっている間に、世の中からとり残されていくように思う 9. 自分の関心が子どもばかりに向いて視野が狭くなる 10. 自分は母親として不十分なのではないだろうか 11. 子どもを産まないほうがよかった 12. 母親であるために自分の行動がかなり制限されている

表2 分娩歴と出産年齢の分布

	総数		初産婦		経産婦	
	人数	%	人数	%	人数	%
総数	1 017		585	57.5	432	42.5
20～24歳	123		85	69.1	38	30.9
25～29	340		224	65.9	116	34.1
30～34	247		130	52.6	117	47.4
35～39	205		100	48.8	105	51.2
40歳以上	102		46	45.1	56	54.9

注 P<0.01

されている。各々の項目は「その通りである:4点」から「違う:1点」の4件法で尋ねた。

(3) 統計解析

児の情報、出産状況は、分娩歴別、出産年齢別に χ^2 検定を行った。2つの尺度は、分娩歴の2群間でt検定、出産年齢別および分娩歴ごと(初産・経産)の出産年齢別で一元配置分散分析、多重比較はTukey法で行った。なお、本研究で用いる有意水準は5%とした。

統計解析には、SPSS for MAC 19.0Jを用いた。

表3 対象者の属性、児の情報、出産状況 (n=1,017)

	人数	%		人数	%
本人の年齢			遷延		
20～24歳	72	7.1	あり	55	5.4
25～29	332	32.6	なし	962	94.6
30～34	246	24.2	医療介入		
34～39	161	15.8	なし	552	54.3
40歳以上	206	20.3	あり(重複回答あり)	439	43.2
児の年齢			帝王切開	168	16.5
0歳	384	37.8	無痛分娩	50	4.9
1	335	32.9	誘発・陣痛促進剤	268	26.4
2	298	29.3	吸引・鉗子分娩	97	9.5
児の性別			わからない・覚えていない	26	2.5
男児	506	49.8	母体リスク		
女児	511	50.2	あり	169	16.6
分娩歴			なし	831	81.7
初産婦 第1子	585	57.5	わからない・覚えていない	17	1.7
経産婦	432	42.5	情報収集		
第2子	316	31.1	あり	547	53.8
第3子	98	9.6	なし	454	44.6
第4子以上	18	1.8	わからない・覚えていない	16	1.6
出生時体重			出産費用の意識		
1,500g未満	4	0.4	高い	623	61.3
1,500g～2,500g未満	105	10.3	適当	304	29.9
2,500g～4,000g未満	900	88.5	安い	84	8.3
4,000g以上	8	0.8	わからない・覚えていない	6	0.6
分娩施設			出産した地域		
産婦人科のみのクリニック・診療所	582	57.2	北海道・東北	107	10.5
その他の病院(大学病院など)	426	41.9	関東	363	35.7
助産院	7	0.7	中部・北陸	141	13.9
居宅	2	0.2	近畿	248	24.4
出生児週数			中国・四国	58	5.7
早産	146	14.4	九州・沖縄	95	9.3
正期産	824	81.0	海外	5	0.5
過期産	47	4.6			

(4) 倫理的配慮

本研究は、順天堂大学医学部研究等倫理委員会の審査で承認されている(認証番号2013077号、平成25年10月22日)。調査は、プライバシーマークを取得した㈱マクロミルに依頼して実施され、本研究者は個人の特定が可能な情報は取得できない。

III 結 果

(1) 対象者の属性、児の情報、出産状況

調査で回答したのは1,030人であった。このうち、20歳未満で出産した4人は、年齢別の比較では人数が少ないこと、また多胎であった9人は、回答を2人以上分することにより信頼性が乏しくなることから除外した。1,017人を分析対象とした。対象者の平均年齢は32.5±6.0歳、平均出産年齢は、31.2±5.8歳であった。一番最近に産んだ児が第何子かで、第1子を選択した対象を初産婦、第2子以上を選択した対

象を経産婦と分類した。初産婦の平均出産年齢は30.3±5.7歳、経産婦は32.3±5.7歳で有意な差があった(P<0.01)。また、分娩歴と出産年齢でχ²検定を行ったところ、有意な差を認めた(P<0.01)(表2)。

対象者の属性、児の情報、出産状況を表3に示す。

分娩施設は、産婦人科のみのクリニック・診療所が全体の57.2%で、助産院と居宅を選択した者が9人であった。この9人を除き、出産年齢別で見ると、出産年齢が低いほど、産婦人科のみのクリニック・診療所、高いほどその他の病院の割合が多かった(P<0.01)。分娩施設を選んだ理由は、全体では多い順に、近い・交通の便がいい、設備が充実している、評判が良い、前回は出産した、緊急に対応できる、であった(表4)。

出産時の医療介入、母体リスク、情報収集については、一つでも「覚えていない・わからない」と答えた46人を除く971人を対象とした。

全体では、医療介入43.2%、母体リスク16.6%、情報収集53.8%でありと回答していた。分娩歴別でみると、医療介入の誘発分娩と吸引・鉗子分娩および情報収集において、初産婦でありの割合が多く、有意な差を認めた（ $P < 0.01$ ）（表5）。また、出産年齢別でみると、年齢が高いほど母体リスクの割合が有意に高かった（ $P < 0.01$ ）。出産費用の意識は、「わからない」と答えた6人を除いた1,011人を対象とした。全体では、61.3%が高いと回答し、分娩歴別では差がなかった。出産年齢別では、高いと回答したのは、20～24歳（69.4%）で年齢が高くなるほど少なくなったが、有意な差は認めなかった。

(2) 出産体験の自己評価尺度

帝王切開を受けた168人を除いた849名を対象とした。出産体験の自己評価の総得点の平均値は、全体では 3.67 ± 0.65 、分娩歴別では、初産婦 3.56 ± 0.68 、経産婦 3.81 ± 0.58 で、t検定を行ったところ経産婦の方が有意に高かった（ $P < 0.01$ ）。項目別では、産痛コーピング、生理的分娩経過で、同様に経産婦が有意に高かった（ $P < 0.01$ ）（表6）。

出産年齢および分娩歴ごと（初産・経産）の出産年齢別で一元配置分散分析を行ったところ、出産年齢別で有意な差がみられたのは、総得点（ $P < 0.01$ ）、項目別の産痛コーピング（ $P < 0.01$ ）、医療スタッフへの信頼（ $P < 0.05$ ）、生理的分娩経過（ $P < 0.01$ ）であった。分娩歴でそれぞれ出産年齢別にみると、初産婦の出産年齢別では総得点（ $P < 0.01$ ）、項目別の産痛コーピング（ $P < 0.01$ ）、医療スタッフへの信頼（ $P < 0.05$ ）、経産婦の出産年齢別では、総得点（ $P < 0.05$ ）、項目別の生理的分娩経過（ $P < 0.01$ ）において有意な差がみられた（表7）。

表4 分娩施設を選んだ理由

(単位 %)

	全体	初産婦	経産婦	20～24歳	25～29	30～34	35～39	40歳以上
近い・交通の便がいい	62.8	64.3	60.9	62.6	63.5	63.6	62.4	59.8
設備が充実している	41.3	43.1	38.9	43.1	38.2	40.5	44.9	44.1
費用が安い	9.6	8.4	11.3	10.6	10.3	8.5	7.8	12.7
前回も出産した	18.9	0.0	44.4	11.4	17.1	20.2	24.4	19.6
立ち会い出産ができる	17.0	17.9	15.7	25.2	20.3	13.4	15.1	8.8
自然分娩ができる	5.7	6.8	4.2	7.3	7.1	4.0	5.9	2.9
無痛分娩ができる	2.9	3.8	1.6	0.8	1.5	3.2	3.9	6.9
会陰切開をしない	1.0	1.0	0.9	2.4	1.2	0.8	0.0	1.0
緊急に対応できる	18.8	20.2	16.9	14.6	14.4	15.4	26.8	30.4
合併症がある	1.5	1.9	0.9	0.8	1.5	1.2	2.0	2.0
評判が良い	33.7	38.6	27.1	36.6	37.9	34.4	26.3	29.4
医療従事者が親切	8.4	7.7	9.3	7.3	8.8	8.9	6.3	10.8
希望した出産ができる	2.7	1.7	3.9	1.6	2.1	3.6	2.9	2.9
友人・知人に勧められた	8.2	10.3	5.3	7.3	9.8	8.5	6.3	6.9
家族に勧められた	8.6	12.0	3.9	17.1	9.1	8.1	6.3	2.0
その他	11.8	12.6	10.6	9.8	15.0	10.5	10.7	8.8
特になし	1.3	1.5	0.9	0.8	1.5	0.8	1.0	2.9

注 該当する上位3つ選択、■は割合が多い5位までを示している。

表5 分娩歴別の児の情報、出産状況（n=971）

	初産婦	経産婦	P
児の年齢			
0歳	233	151	
1	183	152	
2	169	129	
児の性別			
男	304	202	
女	281	230	
出生時体重			
2,500g未満	55	54	
2,500g以上	530	378	
分娩施設			
産婦人科のみのクリニック・診療所	325	257	
その他の病院(大学病院など)	259	167	
出生児週数			
早産	76	70	
正期産	478	346	
過期産	31	16	
遷延			
あり	38	17	
なし	547	415	
医療介入			
帝王切開：あり	93	60	
なし	466	352	
無痛分娩：あり	32	16	
なし	527	396	
誘発分娩：あり	184	72	**
なし	375	340	
吸引・鉗子分娩：あり	79	12	**
なし	480	400	
母体リスク			
あり	93	73	
なし	466	339	
情報収集			
あり	341	188	**
なし	218	224	

注 χ^2 検定。 ** $P < 0.01$

(3) 母性意識尺度

総得点の平均値は、全体で肯定感 3.11 ± 0.58 、否定感 2.26 ± 0.52 であった。分娩歴別にみると、肯定感は初産婦 3.15 ± 0.56 、経産婦 3.05 ± 0.59 で初産婦が有意に高く（ $P < 0.01$ ）、否定感は初産婦 2.22 ± 0.52 、経産婦 2.31 ± 0.52 で経産婦

表6 分娩歴別の出産体験の自己評価と母性意識の平均得点

	初産婦	経産婦	P
出産体験の自己評価			
総得点	3.56±0.68	3.81±0.58	**
産痛コーピング	3.15±0.90	3.54±0.82	**
医療スタッフへの信頼	3.84±0.76	3.85±0.73	
生理的分娩経過	3.80±0.90	4.14±0.72	**
母性意識			
肯定感	3.15±0.56	3.05±0.59	**
否定感	2.22±0.52	2.31±0.52	**

注 t検定, **P<0.01

が有意に高かった (P<0.01) (表6)。

出産年齢別および分娩歴の出産年齢別で一元配置分散分析を行ったところ、出産年齢別では、肯定感 (P<0.01) と否定感 (P<0.05) とともに有意な差がみられた。分娩歴で各々出産年齢別にみると、初産婦の出産年齢別では肯定感で有意な差がみられ (P<0.05)、経産婦の出産年齢別では、否定感で有意な差がみられた (P<0.05) (表7)。

表7 出産年齢別および分娩歴の年齢別の出産体験の自己評価と母性意識の平均得点

尺度	1 20~24歳	2 25~29	3 30~34	4 35~39	5 40歳以上	P	多重比較 (Tukey)														
							1-2	1-3	1-4	1-5	2-3	2-4	2-5	3-4	3-5	4-5					
年齢別																					
出産体験の自己評価																					
総得点	3.91	3.62	3.64	3.63	3.67	**															
産痛コーピング	3.60	3.27	3.25	3.30	3.32	**															
医療スタッフへの信頼	4.03	3.78	3.83	3.82	3.89	*															
生理的分娩経過	4.21	3.92	3.93	3.85	3.88	**															
母性意識																					
肯定感	3.30	3.11	3.02	3.05	3.17	**															
否定感	2.25	2.29	2.31	2.22	2.13	*															
初産、年齢別																					
出産体験の自己評価																					
総得点	3.84	3.51	3.48	3.54	3.51	**	**	**													
産痛コーピング	3.51	3.10	3.04	3.09	3.06	**	**	**	*												
医療スタッフへの信頼	4.04	3.76	3.78	3.89	3.94	*	*														
生理的分娩経過	4.04	3.78	3.73	3.75	3.61																
母性意識																					
肯定感	3.32	3.15	3.07	3.08	3.17	*		*	*												
否定感	2.22	2.23	2.26	2.18	2.13																
経産、年齢別																					
出産体験の自己評価																					
総得点	4.09	3.83	3.80	3.70	3.77	*			**												
産痛コーピング	3.82	3.58	3.48	3.48	3.49																
医療スタッフへの信頼	4.00	3.82	3.89	3.77	3.85																
生理的分娩経過	4.57	4.18	4.15	3.94	4.06	**	**	**	**	*											
母性意識																					
肯定感	3.23	3.06	2.96	3.02	3.17																
否定感	2.32	2.40	2.36	2.26	2.13	*											**			*	

注 一元配置分散分析, **P<0.01, *P<0.05

表8 母性意識尺度の各項目点数

	初産婦	経産婦	P	初産婦						P
				20~24歳	25~29	30~34	35~39	40歳以上		
肯定感										
1. 母親であることが好きである	3.42	3.32	*	3.61	3.43	3.35	3.37	3.35		
2. 母親になったことで人間的に成長できた	3.51	3.51		3.66	3.53	3.48	3.38	3.48	*	
3. 母親としてふるまっているときが一番自分らしいと思う	2.59	2.54		2.71	2.60	2.52	2.48	2.78		
4. 母親であることに生きがいを感じている	3.17	3.04	*	3.42	3.21	3.04	3.04	3.13	**	
5. 母親になったことで気持ちが安定して落ち着いた	2.87	2.77		3.02	2.83	2.77	2.88	3.04		
6. 母親であることに充実感を感じる	3.32	3.13	**	3.52	3.28	3.27	3.33	3.26		
否定感										
7. 子どもを育てることが負担に感じられる	2.09	2.27	**	1.91	2.08	2.20	2.11	2.09		
8. 育児にたずさわっている間に、世の中からとり残されて行くように思う	2.25	2.36		2.35	2.30	2.19	2.15	2.15		
9. 自分の関心が子どもばかりに向いて視野が狭くなる	2.44	2.48		2.47	2.49	2.48	2.33	2.30		
10. 自分は母親として不適格なのではないだろうか	2.31	2.52	**	2.41	2.27	2.38	2.24	2.26		
11. 子どもを産まないほうが良かった	1.21	1.22		1.13	1.21	1.28	1.18	1.20		
12. 母親であるために自分の行動がかなり制限されている	3.01	3.03		3.04	3.03	2.98	3.06	2.78		

注 一元配置分散分析, **P<0.01, *P<0.05

尺度の各項目の平均点を、分娩歴別および分娩歴ごとの出産年齢別に、表8に示す。

IV 考 察

平成23年人口動態統計¹³⁾での初産婦は47.1%に対し、本研究は57.5%で約10ポイント多かった。しかし、初産婦の平均出産年齢は30.1歳であり¹³⁾、本研究は30.3歳で、ほとんど差異はない。また、医療介入をみると、初産婦は誘発分娩や吸引・鉗子分娩が経産婦よりも多く、母体リスクは年齢が高くなるに従い多く、これは先行研究³⁾⁴⁾と同様の結果である。これらから、本研究の対象者は特異な集団ではないと考えられる。

出産体験の満足度と母性意識について、出産体験の満足度は、経産婦において、総得点、項目別の産痛コーピング、生理的分娩経過が、初産婦よりも有意に高かった。これは、施設利用者等の小集団に限定された先行研究⁵⁾¹¹⁾¹⁴⁾と同様の結果であった。出産体験の満足度は、誘発や産科処置などの医療介入で下がるとされており⁵⁾⁸⁾、本研究においても初産婦は経産婦よりも誘発分娩、吸引・鉗子分娩の医療介入の割合が多く、初産婦の満足度が低くなったと考えられる。また、20～24歳の満足度が高かったのは、母体リスクが低く、出産時の不安が他の年齢層よりも少なかったからと考えられる。これは、出産時の不安が少ない者のほうが産痛コーピ

ング、生理的分娩経過が高いこと⁵⁾と同じ意味を持つ。分娩場所を選んだ理由として、20～24歳では、立ち会い出産の割合が多く、分娩施設はクリニック・診療所を選ぶ割合が多かった。これは、パートナーの立ち会いが出産の満足度を高め⁸⁾、病院よりも診療所の場合は自身を肯定的にとらえている¹⁵⁾とされ、出産体験の満足度を高めたと考えられる。

母性意識については、分娩歴別による報告はない。本研究で、初産婦で肯定感が高く、経産婦で否定感が高かった。第1子について、それが乳幼児の場合は、肯定感が高く否定感が低いが、学童期から中学生の場合は、肯定感が低く否定感が高いとする報告があり⁹⁾、本研究の経産婦の第1子の年齢は不明であるが、初産婦よりも経産婦の第1子の年齢の方が高く、同様の傾向を示した可能性がある。また、経産婦は初産婦より、子どもを育てることが負担に感じられるについて有意に多く回答していた。これは、初産婦は、母親は子どもに密着し献身的な感情を抱き⁹⁾、経産婦では、子どもに手がかかるという意識が高いとの報告²⁾と関連していると考えられる。

出産年齢別および初産婦の出産年齢別では、肯定感について、20～24歳で高く、年齢を経るに従い低くなり、40歳以上において再び高くなっていた。20～24歳は、母性意識の項目で、人間的に成長できた、生きがいを感じているが高かった。これは、2010年出生動向基本調査²⁾でも、他の年齢層に比べて、結婚したら子どもは持つべきの割合が多く、本研究対象者は出産を体験した集団であり、母性意識が高いと考えられる。年齢とともに肯定感が低下するのは、25～34歳では、結婚したら子どもを持つべきを否定する割合が高く²⁾、30歳代において、これ以上、育児の心理的・肉体的負担に耐えられないから理想の子ども数を持たない²⁾と報告されていることと関連していると考えられる。経産婦の出産年齢別では、否定感と、各項目の世の中からとり残される、自分の行動が制限される、について40歳以上で有意に低かった。40歳以上は、母体リスクや自然死産率が高いが、出産で

経産婦					
20～24歳	25～29	30～34	35～39	40歳以上	P
3.53	3.34	3.20	3.27	3.46	*
3.68	3.53	3.44	3.47	3.59	
2.68	2.49	2.49	2.52	2.70	
3.37	3.10	2.91	2.98	3.07	
2.87	2.72	2.68	2.78	2.96	
3.26	3.14	3.07	3.10	3.25	**
2.16	2.28	2.38	2.19	2.25	
2.34	2.63	2.37	2.23	2.02	
2.47	2.60	2.49	2.49	2.20	
2.66	2.59	2.59	2.42	2.32	
1.18	1.24	1.24	1.21	1.20	
3.13	3.09	3.10	3.00	2.77	

きたことから、母性意識の否定が低くなったと考えられる。これらの結果から、出産、子育てに関する意識が、分娩歴や出産年齢によって異なる可能性を示唆している。

本研究の限界として、出産時の状況や医療介入は本人の回答であり、関わった医療従事者からの確認はとることができず、信ぴょう性に課題がある。また、大都市圏に限定していること、Web調査会社のモニター登録という有意抽出法のため選択の偏りが発生しうるなどのバイアスが考えられる。しかし、本研究の対象者は、出産年齢である20歳代から40歳代が、モニター属性の大部分を占めていること、回収率が約70%であったことから、その結果を一般化できる可能性は十分考えられる。

V 結 語

本研究において、分娩歴別、出産年齢別で、出産満足度と母性意識が違うことが明らかになった。母親への出産や子育てへのサポートは、分娩歴や出産年齢を考慮し、出産体験の満足度や母性意識に配慮することが効果的であると示唆された。

文 献

- 1) 厚生労働統計協会. 国民衛生の動向2012/2013 2012: 102-3.
- 2) 平成22年わが国夫婦の結婚家庭と出生力－第14回出生動向基本調査－. 国立社会保障・人口問題研究所. 東京: 一般財団法人 厚生労働統計協会, 2012: 188.
- 3) 小竹久美子, 足立淑子, 佐々木静子, 他. 初産・経産婦における微弱陣痛, 分娩遷延, 子宮収縮不全, 弛緩出血の関連と相対リスク. 助産雑誌. 2012; 66(12): 1024-9.

- 4) 笠井靖代, 尾崎倫子, 山田学, 他. 年齢因子は分娩に影響するか. 周産期新生児誌. 2012; 48(3): 585-94.
- 5) 常盤洋子. 出産体験の自己評価に影響を及ぼす要因の検討－初産婦と経産婦の違い－. 群馬保健学紀要. 2001(22): 29-39.
- 6) 佐藤彰子, 梅野貴恵. 褥婦のパーズプランの認識と出産満足度との関連に関する研究. 日本助産学会誌. 2011; 25(1): 27-35.
- 7) 山口さつき, 平山恵美子. 出産体験の自己評価に影響を及ぼす要因. 母性衛生. 2011; 52(1): 160-7.
- 8) 竹原健二, 野口真貴子, 嶋根卓也, 他. 出産体験の決定因子. 母性衛生. 2009; 50(2): 360-72.
- 9) 大日向雅美. 母性の研究－その形成と変容の過程: 伝統的母性観への反証. 東京: 川島書店, 1988.
- 10) 竹原健二, 野口真貴子, 嶋根卓也, 他. 豊かな出産体験がその後の女性の育児に及ぼす心理的な影響. 日本公衛誌. 2009; 56(5): 312-21.
- 11) Green JM, Coupland VA, Kitzinger JV. Expectations, experiences, and psychological outcomes of childbirth: a prospective study of 825 women. Birth. 1990 Mar; 17(1): 15-24.
- 12) 常盤洋子, 今関節子. 出産体験自己評価尺度の作成とその信頼性・妥当性の検討. 日看科会誌. 2000; 20(1): 1-9.
- 13) 厚生労働省ホームページ. 平成23年人口動態統計月報(概数)の概況: 結果の概要. (<http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/geppo/nengai12/dl/kekka.pdf>) 2013.8.27.
- 14) Waldenstrom U, Borg IM, Olsson B, et al. The childbirth experience: a study of 295 new mothers. Birth. 1996 Sep; 23(3): 144-53.
- 15) 小林正子, 渡邊典子. 初経産婦別の出産場所別にみた産む人の意識, 行動と選択基準. 新潟青陵大学紀要. 2008; 8: 9-20.